

平成30年6月14日	資料6
第41回レセプト情報等の 提供に関する有識者会議	

第4回 N D B オープンデータについて

平成30年6月14日

厚生労働省保険局医療介護連携政策課

保険システム高度化推進室

第4回NDBオープンデータの作成の考え方とスケジュール

作成の考え方

- 平成29年度のレセプト情報・平成28年度の特定健診情報を集計対象とする
- 第3回NDBオープンデータと同一の項目は定型的に集計表を作成する
- 集計要望を受け付け、それを踏まえた上で集計表を作成する予定

		平成30年度										平成31年度	
作業項目		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
1	定型部分の集計表作成			→									
2	集計要望の把握・まとめ	→		次回以降にむけ、今後も継続して要望を募る予定									
3	集計要望にもとづく集計表作成							→					
4	解説編・グラフ等の作成					→							
5	公表に向けた調整・公表										→		

第4回NDBオープンデータに寄せられたご要望について①

要望#	集計対象	要望内容	第4回オープンデータ対応方針案
1	全体	二次医療圏毎での集計	都道府県別の集計を二次医療圏別の集計に変更した場合、作成する集計値が約7倍に増加する。(都道府県:47、二次医療圏:344) 例えば、医科診療行為のみでも集計対象項目数 $10295 \times 47 = 483865$ が、 $10295 \times 344 = 3541480$ となり、作業負荷の大幅な増加が見込まれる。また、集計区分を細かくすることで、最小集計単位未満となりマスクされる値の増加が懸念される。 以上を踏まえ、集計対象項目を少数に限定した上で二次医療圏別の集計を試行し、試行結果に基づき今後の対応を検討してはどうか。
2	全体	第2回・第3回NDBオープンデータで追加された集計及び集計条件が変更された集計について、第2回・第1回に遡った再集計の実施	作業負荷が高く、対応が困難である。
3	全体	レセプト病名の集計	レセプト病名の妥当性については「疑い」病名の取扱いなど相応の検証が必要と考えられることから、平成30年度厚生労働科学研究「ナショナルデータベース(NDB)データ分析における病名決定ロジック作成のための研究」の検討結果も踏まえて、今後の対応を検討してはどうか。
4	全体	最小集計単位の検討 ・基準未満の値を非表示にする方針の見直し ・値が小さい場合と0の場合が区別可能な表示方法への変更 ・基準未満の値が一つのみの場合の対応の見直し	「レセプト情報・特定健診等情報の提供に関するガイドライン」に記載の事項及び第33回有識者会議にて検討済み事項である。

第4回NDBオープンデータに寄せられたご要望について②

要望#	集計対象	要望内容	第4回オープンデータ対応方針案
5	医科診療 行為	・透析患者数の集計 ・副甲状腺ホルモン剤使用患者数の集計	患者数については名寄せに係る作業負荷が高いため、対応が困難である。
6	医科診療 行為	透析に関連する管理料・処置・手術の件数	算定回数は公表済み。
7	医科診療 行為/薬剤	副甲状腺ホルモン剤使用患者について、骨折治療に関連する分類コード別に診療行為別、性別、年齢階級別での集計	個別の目的への対応は困難である。